

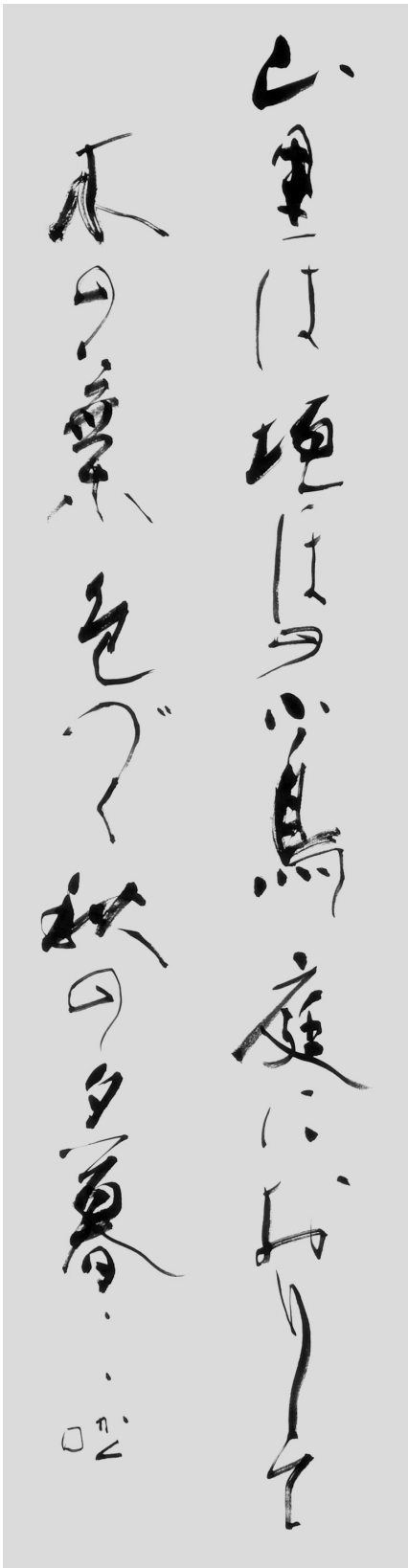
11月25日正午必着

明石春浦先生書



詩債暮歸 (范石湖) 詩友と暮敵。

明石幸子書



山里は垣ほの小鳥庭におりて木の葉色づく秋の夕暮 (足利義尚)



三浦士岳先生書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

聞看^{きく}西^{せい}澗^{かん}月^{つき}。秋^{しゅう}閣^{かく}與^あ僧^{そう}開^{ひらく}。
 正是^{まさ}相^{あいに}思^{こころ}夜^よ。鐘^{かね}聲^{こゑ}若^{ごと}處^{ところ}來^{きたる}。
 (高青邱)

聞けば、西澗の月を眺めむが爲に、秋夜、閣を明け放しにして、僧と共に坐して居るさうで、この相思の夜に當り、こなたにまで聞こえる鐘の聲は、君の處で撞き出したのであらう。

天寒踏^{てん}曉^{かん}冰^{ひょう} (王禹偁)

天寒^{てん}く 曉^{ぎょう}冰^{ひょう}を踏^ふむ。

明け方に歩むと地面に氷がはっていた。

何^{なに}處^{ところ}秋^{しゅう}風^{ふう}至^{いたる} 蕭^{しょう}蕭^{しょう}送^{おく}雁^{がん}羣^{ぐん} (劉禹錫)

何^{なん}れ^の處^{ところ}よ^りか 秋^{しゅう}風^{ふう}至^{いたる} 蕭^{しょう}蕭^{しょう}と^{して}雁^{がん}羣^{ぐん}を^{おく}送^{おく}
 朝^{あさ}來^{きた}庭^{てい}樹^{じゆ}に^いり 孤^こ客^{かく}最^も先^まに^きく

これは樂府題で、特に管弦にかけて歌つたものである。この詩、唐詩選に收む

雲陽館與^{うん}韓^{かん}升^{しょう}卿^{けい}宿^{しゆく}別^{べつ} (司空曙)

雲陽^{うん}の^{かん}館^{かん}に^{して}韓^{かん}升^{しょう}卿^{けい}と^{しゆく}宿^{しゆく}別^{べつ}す

司空曙

故^こ人^{じん}江^{かう}海^{かい}別^{べつ} 幾^{いく}度^た隔^へ山^{さん}川^{せん} (白居易)

故^こ人^{じん} 江^{かう}海^{かい}に^わか^れ 幾^{いく}度^たか 山^{さん}川^{せん}を^へ隔^たつ

乍^な見^み翻^{ひん}疑^ぎ夢^む 相^あ悲^ひ各^{おの}問^と年^{ねん}

乍^なち^みて 翻^かえ^りて 夢^むか^と疑^ぎい 相^あい^なし^んで 各^{おの}々^{おの}年^{ねん}を^と問^とう

孤^こ燈^{とう}寒^{さむ}照^あ雨^{あめ} 深^{しん}竹^{ちく}暗^{くら}浮^う煙^{えん}

孤^こ燈^{とう} 寒^{さむ}く 雨^{あめ}を^あ照^てら^し 深^{しん}竹^{ちく} 暗^{くら}く 煙^{えん}を^う浮^うぶ

更^{さら}有^あ明^{めい}朝^{ちよう}恨^あ 離^り杯^{はい}惜^お共^お傳^お

更^{さら}に 明^{めい}朝^{ちよう}の^{うら}恨^あみ^{あり} 離^り杯^{はい} 共^{とも}に^{つた}う^るを^お惜^おし^む

ふくらなる 羽毛襟^ほ卷^まの^にほ^ひを^新し^む 十^{じゅう}一^{いち}月^{げつ}の^朝の^あひ^びき

(北原 白秋)

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

皆 千
飛 樹
葉

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

行書

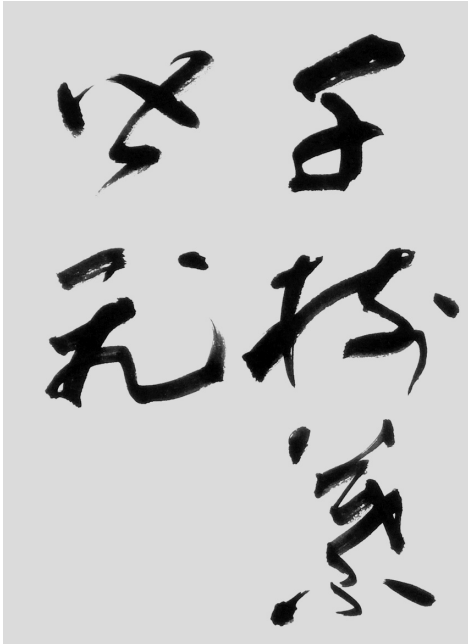


隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



ここ楚の地の人々が竹枝を歌うのをきけば さすらいのこの身、涙はこぼれて衣をぬらす
 異郷にながく旅寓し 寒い夜、しきりに故郷に帰る夢をみる
 一通の手紙を送ったが、返事も来ないうちに 数知れぬ木々の葉はすっかり飛び散ってしまった
 これより南へ向かい、洞庭湖を過ぎて行けば 故郷のたよりはいつそ稀になるにちがいない

客中

于武陵

楚人歌竹枝

游子淚沾衣

異國久爲客

寒宵頻夢歸

一封書未返

千樹葉皆飛

南過洞庭水

更應消息稀

客中

于武陵

楚人 竹枝を歌い

遊子 涙衣を沾す

異國 久しく客と為り

寒宵 頻りに帰るを夢む

一封の書 未だ返らざるに

千樹 葉皆な飛ぶ

南のかた洞庭の水を過ぐれば

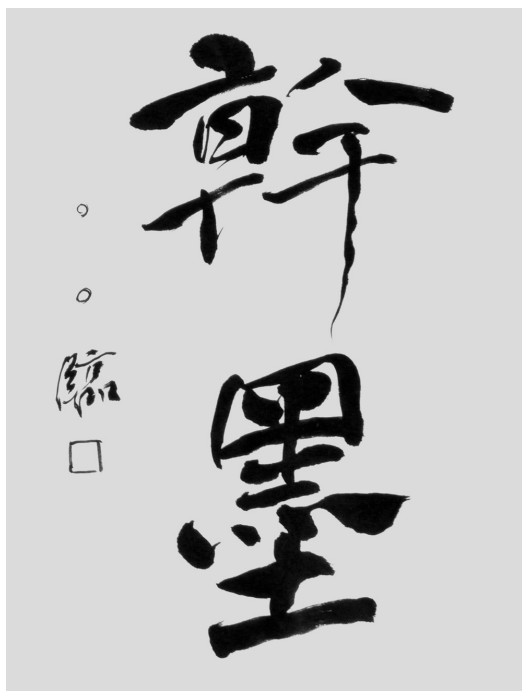
更に応に消息稀なるべし

(出典)

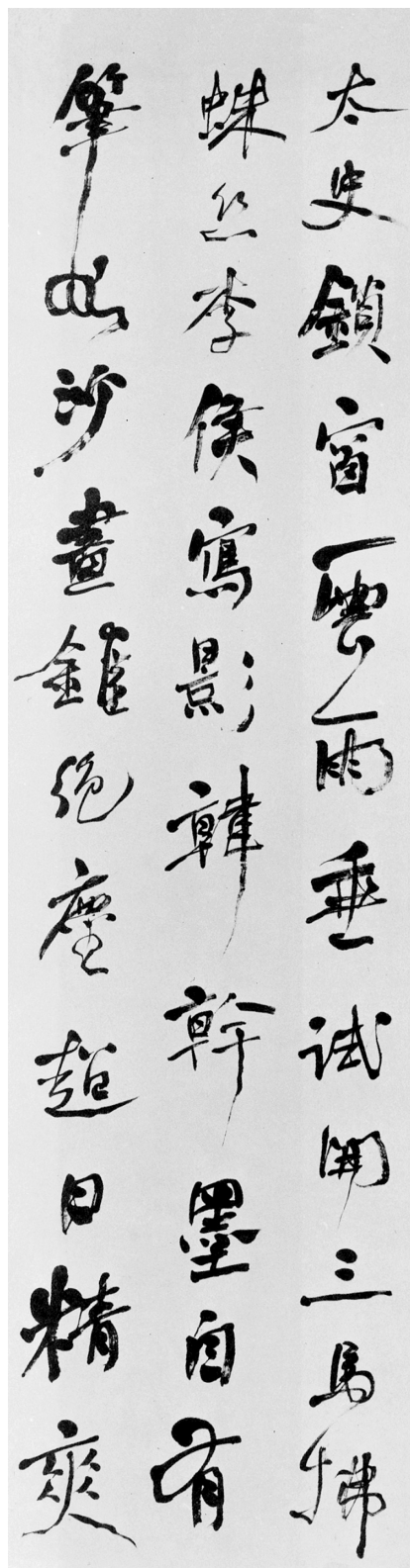
朝日新聞社刊

「三体詩」下より

11月25日正午必着



幹墨



太史鎖窗雲雨垂 試用三馬拂 蛛絲 李侯寫景 幹墨 自有筆如沙畫 錐 絕壁超日精爽……

西 墨濤先生臨書

何紹基・畫馬贊

何紹基は湖南省・道州の人。字は子貞・東州と号し、後に援叟と号した。詩に熱中し、二十歳頃には一家の風を開く。二十四歳の時に北京で包世臣と交わったことが、金石研究の端緒となった。三十七歳で郷試に、翌年進士に合格し翰林院に入った。この時、指導官阮元から北碑唱導説を受け、北碑の研究に打ち込むようになった。

書風は父から「横平堅直」を受け、北碑・隸篆・鐘鼎文字まで広く学んだとされるが、根底には顔法があった。包・阮の感化を受け、書法の最後の練磨を漢碑の隸書に賭ける。特に「張遷碑」に力を尽くした。

楊守敬は彼の書について「世間の人は彼の天分がすぐれていることは知っているが、刻苦精励したということを知らない。彼の書を習うと軽佻になりやすいのは、学ぶ者の心が彼の精神的な深さに及ばないからである。」と述べている。

この畫馬贊は七言古詩一首を四屏に書したものである。見た目のイメージだけで臨書すると、散漫になり易く危険。廻腕直筆に構え、伸びやかで呼吸の長い運筆を心がけたい。

(春廣)



江送巴南水 山横塞北云 津亭秋月夜 誰見泣離羣 (王勃)

こはおくろはなんのみず やまはよこたわささいほくのくも しんていしゅうげつつよ たれかみんりくんになくを

△倣書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



鎖レ窗雨垂

教育部毛筆



でん えん と し
田園都市

中学一年

雨宮春聲先生書



と し ょ い いん
図書館委員

中学二三年

菅井松雲先生書

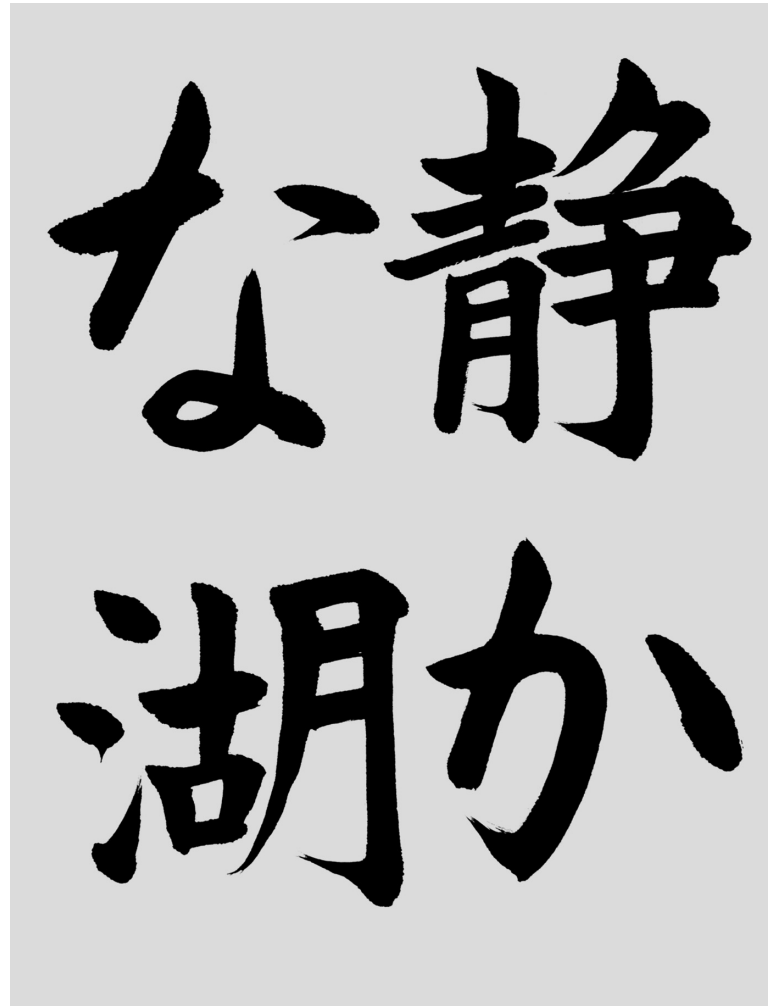
※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



しら ゆき
白雪ひめ

小学五年

榎戸春龍先生書



しず みずうみ
静かな湖

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

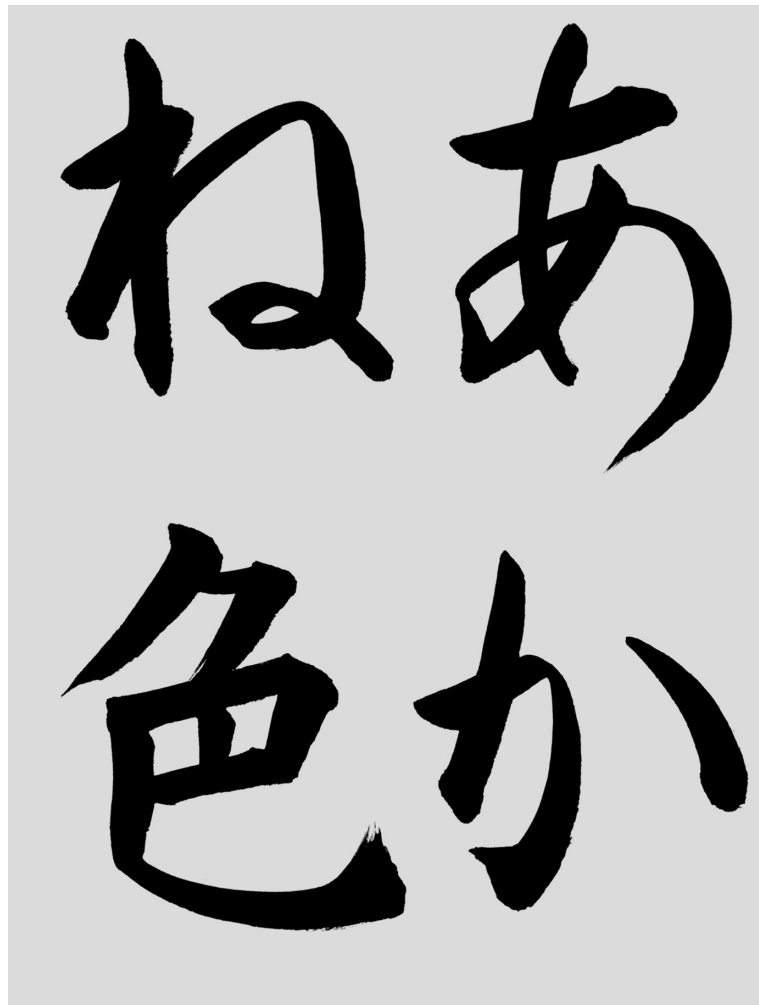
11月25日正午必着



い け ^{はな}花

小学三年

藤田幸春先生書



あ かね ^{いろ}色

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ふ え 小学一年・幼年



森戸春濤書

こ ね 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

白鳥がやって来た	寒気とともに北から
----------	-----------

小学五年

のようすを見た	テレビで大統領選挙
---------	-----------

小学六年

がひとつに結ばれる	芸術を通じて世界
-----------	----------

中学

寺の鐘がひびき渡る	深まる秋の里山に古
-----------	-----------

一般(級位)

夜もすがらひとり深山の 横の葉に曇るも澄める 有明の月(鴨長明)	夜もすがらひとり 深まる秋の里山に古 寺の鐘がひびき渡る
--	------------------------------------

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

え	こ
か	ね
	こ
き	の
こ	な
え	き
た	ご

幼年

に	名
	ま
か	え
き	を
ま	き
し	れ
た	い

小学一年

手	つ
を	く
ぶ	え
つ	の
つ	角
け	に
た	

小学二年

て	い
	つ
活	も
気	楽
が	し
あ	そ
る	う

小学三年

て	友
手	だ
紙	ち
を	へ
か	心
い	を
た	こ
	め

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ゆふされば
大根の葉に
ふる時雨
いたくさびしく
ふりにける鴨

ゆふされば
大根の葉に
ふる時雨
いたくさびしく
ふりにける鴨



岩本景楓先生書

ゆふされば
者 大根の葉に
二 ふる時雨
いたくさびしく
多 散日 具 婦利尔希流
ふりにける鴨
(斉藤茂吉)